

第1問 仕訳問題

1. 株式の売却原価と売却価額を算定し、両者の差額で売却損益を算定します。

売却原価：@ ¥650 × 3,000株 = ¥1,950,000

売却価額：@ ¥610 × 3,000株 = ¥1,830,000

売却損益：¥1,830,000 - ¥1,950,000 = △¥120,000 (売却損)

2. 備品の購入代金のうち、小切手の振出分は「当座預金」勘定で処理し、残額は「未払金」勘定で処理します。

3. 前期末の決算整理仕訳は下記のとおりです。

(借) 未 収 利 息 18,000 (貸) 受 取 利 息 18,000

本問は期首再振替仕訳なので、上記仕訳の貸借反対の仕訳を行います。

4. 問題文に『決算時に棚卸を行い、当期の使用額を費用に振り替える方法』とあるので、決算整理時に「消耗品」勘定から「消耗品費」勘定に振り替えることを意味しており、期中に消耗品を購入したときには「消耗品」勘定で処理していることになります。

5. 当店発行の商品券を受け取った場合、「商品券」勘定を減少させます。

第2問 補助簿の選択問題

各帳簿は次の場合に記入されます。

現金出納帳	現金勘定の増減があったとき。
当座預金出納帳	当座預金勘定の増減があったとき。
仕入帳	仕入勘定の増減があったとき。
売上帳	売上勘定の増減があったとき。
支払手形記入帳	支払手形勘定の増減があったとき。
受取手形記入帳	受取手形勘定の増減があったとき。
商品有高帳	商品の在庫数量・在庫単価に増減があったとき。
仕入先元帳	買掛金勘定の増減があったとき。
得意先元帳	売掛金勘定の増減があったとき。

各取引について仕訳を示すと次のようになります (金額は省略してあります)。

(1)	仕入帳 ← (借) 仕入 (貸) 受取手形	→ 受取手形記入帳
	商品有高帳 ← (貸) 支払手形	→ 支払手形記入帳
(2)	現金出納帳 ← (借) 現金 (貸) 償却債権取立益	
(3)	受取手形記入帳 ← (借) 受取手形 (貸) 売上	→ 売上帳
	得意先元帳 ← (借) 売掛金 (貸) 当座預金	→ 商品有高帳
	(借) 発送費 (貸) 当座預金	→ 当座預金出納帳
	(借) 立替金	
(4)	仕入先元帳 ← (借) 買掛金 (貸) 仕入	→ 仕入帳
		→ 商品有高帳

第3問 月中取引の資料から合計試算表の作成

1 月中の取引の仕訳を示すと次のようになります。

1月1日	(借) 保険料	12,000	(貸) 前払保険料	12,000
	(借) 未払家賃	9,000	(貸) 支払家賃	9,000
3日	(借) 仕入	237,000	(貸) 当座預金	87,000
			(貸) 支払手形	150,000
4日	(借) 前受金	36,000	(貸) 売上	360,000
	(借) 売掛金	324,000		
	(借) 発送費	2,000	(貸) 現金	2,000
5日	(借) 買掛金	100,000	(貸) 売掛金	100,000
6日	(借) 仕入	160,000	(貸) 受取手形	67,000
			(貸) 買掛金	93,000
〃日	(借) 資本金	30,000	(貸) 仕入	30,000

7日	(借) 受取手形	200,000	(貸) 売上	300,000
	(借) 売掛金	100,000		
9日	(借) 貸倒引当金	12,000	(貸) 売掛金	15,000
	(借) 貸倒損失	3,000		
10日	(借) 仮払金	50,000	(貸) 当座預金	50,000
11日	(借) 当座預金	190,000	(貸) 仮受金	190,000
15日	(借) 買掛金	8,000	(貸) 仕入	8,000
16日	(借) 支払手形	97,000	(貸) 当座預金	97,000
17日	(借) 旅費交通費	46,000	(貸) 仮払金	50,000
	(借) 現金	4,000		
	(借) 仮受金	190,000	(貸) 売掛金	140,000
			(貸) 前受金	50,000
18日	(借) 仕入	134,000	(貸) 支払手形	80,000
			(貸) 買掛金	50,000
			(貸) 現金	4,000
21日	(借) 給料	180,000	(貸) 所得税預り金	21,000
			(貸) 従業員立替金	18,000
			(貸) 当座預金	141,000
22日	(借) 前受金	50,000	(貸) 売上	512,000
	(借) 受取手形	340,000		
	(借) 売掛金	122,000		
25日	(借) 当座預金	409,000	(貸) 貸付金	400,000
			(貸) 受取利息	9,000
28日	(借) 当座預金	338,200	(貸) 受取手形	340,000
	(借) 手形売却損	1,800		
31日	(借) 未収金	58,000	(貸) 備品	200,000
	(借) 減価償却累計額	144,000	(貸) 固定資産売却益	5,000
	(借) 減価償却費	3,000		
	減価償却累計額	¥200,000 × 0.9 ÷ 5年 × 4年 = ¥144,000		
	減価償却費	¥200,000 × 0.9 ÷ 5年 × $\frac{1 \text{カ月}}{12 \text{カ月}}$ = ¥3,000		
〃日	(借) 支払家賃	108,000	(貸) 当座預金	108,000
	借方合計	<u>3,698,000</u>	貸方合計	<u>3,698,000</u>

仕訳が終わったら、前期末貸借対照表の金額と1月中の取引の金額を集計して、各勘定の借方合計・貸方合計を記入します。なお、資本金勘定の貸方合計は貸借対照表の資本金¥2,500,000と当期純利益¥350,000の合計金額となります。

第4問 伝票の作成

一部現金取引の伝票への記入方法において、本問は2問とも単純に現金取引と振替取引に分解して起票する方法(分解方式)を採用しています。

(1) 本問の取引の仕訳は以下のようになります。

(借) 仕入	500,000	(貸) 現金	400,000
		(貸) 前払金	100,000

以下の2つの伝票に分解します。

(借) 仕入	400,000	(貸) 現金	400,000	←出金伝票
(借) 仕入	100,000	(貸) 前払金	100,000	←振替伝票

(2) 本問の取引の仕訳は以下のようになります。

(借) 現金 300,000 (貸) 売上 700,000
(借) 受取手形 400,000

以下の2つの伝票に分解します。

(借) 現金 300,000 (貸) 売上 300,000 ←入金伝票
(借) 受取手形 400,000 (貸) 売上 400,000 ←振替伝票

第5問 精算表の作成(順進)

決算整理事項その他について仕訳を示すと次のようになります。

1. 現金過不足の処理

(借) 給料 200 (貸) 現金過不足 500
(借) 雑損 300

給料： $¥12,200 - ¥12,000 = ¥200$

雑損：貸借差額

2. 仮受金の処理

(借) 仮受金 25,000 (貸) 売掛金 25,000

3. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 2,440 (貸) 貸倒引当金 2,440

見積額 $(¥72,000 + ¥180,000 - ¥25,000) \times 2\% = ¥4,540$

繰入額 $¥4,540 - ¥2,100 = ¥2,440$

4. 売買目的有価証券の期末評価替

(借) 売買目的有価証券 2,000 (貸) 有価証券評価益 2,000

評価損益：時価 $¥67,000$ - 簿価 $¥65,000 = ¥2,000$ (評価益)

5. 売上原価の算定

(借) 仕入 13,000 (貸) 繰越商品 13,000

(借) 繰越商品 15,000 (貸) 仕入 15,000

6. 消耗品の処理(費用法)

(借) 消耗品 950 (貸) 消耗品費 950

残高試算表上に「消耗品費」勘定があるので、期中は「費用法」で処理していることがわかります。よって、期中未消費額 $¥950$ を「消耗品」勘定に振替えます。

7. 減価償却費の計上

(借) 減価償却費 44,100 (貸) 建物減価償却累計額 21,600
(貸) 備品減価償却累計額 22,500

建物 $¥600,000 \times 0.9 \div 25年 = ¥21,600$

備品 $¥250,000 \times 0.9 \div 10年 = ¥22,500$

合計 ¥44,100

8. 支払保険料の繰延(前払)

(借) 前払保険料 1,125 (貸) 支払保険料 1,125

前払保険料： $¥2,700 \times \frac{5カ月(※)}{12カ月} = ¥1,125$

(※) 翌期1月1日～翌期5月31日まで

9. 支払利息の見越(未払)

(借) 支払利息 1,300 (貸) 未払利息 1,300

未払利息： $¥4,500 - ¥3,200 = ¥1,300$